

平成27年度第4回岐阜県総合教育会議 議事録

1 開催日時及び場所

平成28年2月24日(水) 15時00分 ~ 16時30分

岐阜県庁舎 4階特別会議室

2 出席者

知事 古田 肇

教育長 松川 禮子

委員 稲本 正

委員 月村 時子

委員 野原 正美

委員 森口 祐子

3 学識経験者

横浜市立中川西中学校校長 平川 理恵

4 オブザーバー

副知事 上手 繁雄

清流の国推進部長 宗宮 康浩

副教育長 尾形 哲也

5 陪席

清流の国づくり政策課長 尾鼻 智

教育総務課長 国島 英樹

6 議事録

別紙のとおり

議 事 録

発 言 者	発 言 内 容
宗宮部長	<p>これより平成27年度第4回岐阜県総合教育会議を開催する。</p> <p>本日は、横浜市立中川西中学校の平川校長の講話と意見交換を行い、その後、大綱（案）に係る協議をお願いしたい。</p>
講 話	
平川校長	<p>民間出身校長として6年目になる。5年間は横浜市立市ヶ尾中学校におり、学校の規模は1学年6クラスずつで全部で630人ぐらいの学校であったが、今年度から勤務している中川西中学校は1学年9～10クラスで生徒数約1,000人と横浜市で最大の学校である。</p> <p>まず、この6年間で気づいたことをお話しさせていただくと、一言で言えば、「民間人でも結構できる。やればできる。」ということになる。</p> <p>教育課程について、各学校で学習指導要領あるいは教科書で内容規定はしているが、例えば、開かれた教育課程ということ言えば、単元ごとに外の風を取り入れたり、あるいは不登校問題の解消のために特別支援教室を設けるなど結構自由にできることが分かった。</p> <p>来年度は特別支援教室（別室）を作って、そこに専任の先生を2名配置する予定である。前任校でも同じ取組みを行った結果、異動前には不登校がゼロとなった。</p> <p>不登校の生徒も、場所と人さえいれば必ず学校に来るようになる。今までの慣例や思い込みの中で、できないとってしまうことがあるが、主体性をもって教育に取り組めばできないことはない。</p> <p>2つ目として、民間で会社経営をしていた経験から感じることであるが、教育の世界では、校長はプロジェクトマネジメントに沿った時間のマネジメントができていない。</p> <p>そもそも、時間にルーズで時間のマネジメントという観念がない。企業では当たり前に行われている、仕事の分担や進捗管理などの「振り返りと棚卸し」が、学校では行われていない。</p> <p>アメリカなどではMBA経営学を必ず習得してから校長に就任するが、日本の学校ではそのような機会がなかなかないと思う。</p> <p>また、マーケティングの戦略も弱いと感じる。どの学校も同じような運営を行っているが、地域や生徒によって実態は全く違うので、その学校の問題点は何かということを押さえて、集中突破的にやってくことも必要であると思う。</p>

「何でも受けすぎず、劣後の優先順位をつけることが大事である」とはドラッカーの言葉であるが、マネージャーは問題を切り分けることが仕事である。そうすれば仕事の整理ができて、学校の多忙化という課題も解消できると思っている。いろいろな考え方はあるが、その点が民間から来て一番ギャップに感じたことであり、また大切なポイントであると思っている。

次に、現中学校に異動して気づいたことであるが、最大の特徴は、教職員約70人、生徒約1,000人と規模の大きな学校ということである。

学校に活気がありPTAも協力的で実践力があり、生活保護や就学援助率は約10%で多くはない。不登校の生徒は30人ぐらいであり、平均すると各クラス1人程度いることになる。

今年度の4月に着任した際に言ったことは、組織力を生かしてやっていきたいということである。会社でも50人以上になると組織として動かすことができる。本校は教職員が70名いるので、連絡会を毎日行ったり情報共有をしっかりとやっていくことを話した。

ここからは、現在行っている取組みを紹介していく。

<学校だより>

教職員に対し、授業の振り返りや教職員を志した動機の確認を行い、その内容を学校だよりホームページに載せている。このようにモチベーションリソースに基づいた人材のマネジメントを行っており、また、教職員の工夫を保護者や地域の人たちに知っていただくことも重要であると考えている。

<公聴ポスト>

公聴ポストを設置して生徒が自由に投函できるようにしている。4月だけで80通、10か月で250通ほどの投書があった。深刻な内容から他愛のないものまで様々であるが、必ず一筆書いて返すようにしている。中には保護者や教職員からの投書もあった。

<アクティブラーニング>

開かれた教育課程ということで、様々な取組みを行っている。

例えば、スウェーデン楽器のブネは幼児でも障がいのある方でもお年寄りでも誰もが使えるユニバーサルな楽器であり、月に1回スウェーデン大使館から指導に来てもらっている。生徒にも大変人気である。

また、作家の椎名誠さんに国語の出前授業や、税理士でもあるPTA会長による租税教室を開催した。その他にも、東京ガスによるエネルギーの授業や赤ちゃんふれあい体験、盲目のバイオリニストの増田太郎さんに来ていただいた。英語についても、色々な学校からAET (Assistant English Teacher) に来てもらっており、スーパー・イングリッシュ・プログラムということで実施している。明日も登山家の野口健さんにお越しいただく予定である。

このような形で、開かれた教育課程というものを少しずつ実現しつつある。

<その他（工夫していること）>

その他にも、教職員研修は、どの学校も工夫してやっていると思うが、本校でも外部から講師をお招きするなどの取組みを行っている。

また、PTAの方々など300人くらいで図書室の改装を行った。これにより昼休みの利用生徒数が20人から160人に増え、満員御礼といった状態である。

来年度からは、JTBと東京書籍に協力していただきICT教育を進めることとしている。例えば、修学旅行で京都の金閣寺に行くとAR（Augmented Reality＝拡張現実）でディスプレイ上に位置情報が表示されるなど、教科書上で押さえておきたいポイントを端末を通じ学ぶことができるといった仕組みを作っていた。

グローバル教育としては、博報堂の博報財団の事業に参加し、当校から8人の生徒がオーストラリアに行くことになった。また、4月には10か国から生徒44名が本校に日本語を学びに来ることになっており、当校の子どもたちも大変楽しみにしている。

また、来年度、学校運営協議会を立ち上げ、学校の取組みの優先順位をつけていくことにしている。

最後に、保護者や地域との連携において気をつけていることは、とにかく対等の立場で対話することである。正直に話し、理解いただき、解決策と一緒に考えてもらうというスタンスである。

また、中学校には小学校の教育課程に到達していない生徒が3割程度入学してくる。同様に中学校の教育課程に到達していない生徒5割程度を高校に送り出し、高校の教育課程に到達していない生徒は7割程度いると言われていた中で、この割合を全てゼロにするというのが私の目標である。

最近注目していることは、ウェルビーイング（幸福度と心の健康）という考え方である。自分は幸福であると感じていないと学力だけを上げようとしても結局どちらも良くならないというものであり、このウェルビーイングの観点で学力を上げていこうという取組みがオランダやスコットランドやデンマークで行われている。

日本の教育も学力状況調査などを見れば頑張っていることはわかるが、幸福度でいうと疑問である。2007年のユニセフのある調査によると、「自分が孤独だと思う」という子どもが、日本は29.8%でワーストであり、オランダやスコットランドやデンマークなどでは1～2%となっており、日本の子どもたちはすごく不幸だなと感じる。

民俗や歴史の違いはあるものの、日本でも画一的な一斉授業を個別授業に変えていくことが鍵だと考える。私の最終的な目標は、選べる教育をさせてあげたいということであり、それを実現させるまで民間人校長を続けていきたいと思っている。

意見交換	
稲本委員	<p>不登校に関し、岐阜県はカウンセラーを100人近く配置し、2億2千万円の予算を組んでいるが、本来、不登校やいじめの問題に一番近くで接するのは先生であると思う。</p> <p>カウンセラーが充実すると、先生もその対応をカウンセラーに任せれば良いと思うようになってしまわないか。</p> <p>平川校長の学校にはカウンセラーは配置しているのか。先生とカウンセラーはどのような関係でいるのか。</p>
平川氏	<p>カウンセラーの役割は保護者対応だと思っている。保護者への対応はカウンセラーにまかせ、子ども自身への対応は先生にやってほしいと考えている。</p> <p>カウンセラーは1週間に1回来るが、教育現場は毎日続くもので、子どもの様子はその日1日だけのものではない。できれば生徒には毎日登校してほしい。そのため、今度作る本校の特別支援教室は正規の教職員2名が中心となる。他に地域のボランティアや学習支援の方なども入れるが、あくまで主軸は本校の教職員でと思っている。</p>
稲本委員	<p>カウンセラーは対処療法としては必要だと思うし、うつ病になった先生に対するカウンセラーは必要だと思う。</p> <p>ただ、子どもに対するカウンセリングに関しては、まずは学校の先生が、予防的な観点でその役割を担う必要があると思う。そして先生ではどうしようもなくなった時にカウンセラーにバトンタッチするのがいいのではないか。</p> <p>そこは岐阜県としても考えなければいけないのではないかとと思っている。</p>
教育長	<p>カウンセラーの配置は岐阜県だけでなく、国が進めている方向性でもある。</p>
稲本委員	<p>不登校は結果であって、その原因をよく見ないといけない。現に不登校はどんどん増えている。</p>
平川氏	<p>オランダに不登校の生徒は一人もいない。</p> <p>なぜかという、私立公立に関わらず、様々な家庭の教育方針によって、100も200もある教育フィロソフィーの中から、例えば、オルタネイティブスクールと言われるシュタイナーやダルトンなどの色々なところから学校を選ぶことができるからである。</p> <p>6年間の到達目標は決まっているが、そこに至る過程までは細かく決めていない。学ぶペースもその子次第であり、学び方も工夫する。</p> <p>日本の学校における不登校には色々な原因があり、カウンセラーがうまく作用するときもあるがそうでないこともある。</p>

	<p>誰がやってもその子にとって一番よい学びを与えられるようにしていかなくてはいけない。家に引きこもり、勉強もせず、ゲームばかりでは、その子たちの行く末や存在意義を考えると胸が痛む。</p>
野原委員	<p>いじめについて取り組んでいることはあるのか。</p>
平川氏	<p>特に前任校では力を入れていじめに取り組んだ。講演会を行ったり、マイケル・サンデルのいじめについて中学生が議論する場に生徒10人を連れていったり、NHKの「いじめノックアウト」という番組に文化祭と絡めて参加したりした。</p> <p>いじめも不登校と同じで、自分に関わって欲しいという欲求から来るものである。家での教育方針と学校での教育方針がずれるとストレスを学校でぶつけたりすることになる。いじめは1000人も生徒がいると必ず生じることではあるが、常日頃からモグラたたき的に対応していくしかない。</p> <p>生徒にとって、今は人との距離感の練習をしているところであるということを守護者にも理解していただき、経験を積むことで大人になってからやらなければよいのではないか。今は、ひどいことになる前に未然防止で見つけるということに対応している。</p> <p>自分が授業を見ていてもいじめの前兆には気が付く。毎日のことではあるが、それを見つけて対応していく必要があると思っている。</p>
稲本委員	<p>教育は機会均等でなければならないが、結果の平等までは担保できない。</p> <p>海外のカリキュラムは日本に比べ自由度が高いようだが、同じように日本で選べる学校を作るのはなかなか難しいのではないか。</p>
平川氏	<p>来年度、英語でやろうとしているのは、週4時間あるうち、1時間は選択にしようと思っている。</p> <p>英検コース、長文読解コース、コミュニケーションコースなどを作り、週3時間は知識理解と活用だけをやり、残りの1時間では生徒の関心のある内容の授業を生徒が選択できるようにする。そうすれば、興味関心を持ち頑張る生徒も出てくるのではないかと思っている。</p> <p>子ども達が内容を選べるようにし、授業レベルにも差をつける。内容も先生が全て決めるのではなく、生徒たちにも決めさせる。</p> <p>教科書どおりにやる部分も必要なので、全ては無理だが、どの教科もそういうかたちで少しずつできればと思っている</p>
月村委員	<p>そういう場合は、評価はどのようにつけるのか。</p>
平川氏	<p>評価は観点別の評価を行う。特に選択授業の場では関心・意欲・態度を評価基準とし、知識・理解は入れない方向で保護者に納得してもらい進めようかと思っている。</p>

	<p>評価はその方がクリアになると思う。今の学校での評価の仕組みは、板書など塾で攻略法があらかじめ指導されているケースもあり、生徒の関心意欲態度が本来とは違う観点で評価されており、保護者も私も疑問に感じることがある。</p>
稲本委員	<p>岐阜県の学校の多くは周りに自然が多いが、平川校長の学校はどういう環境に立地しているのか。</p>
平川氏	<p>25年前に開発された新興住宅街であり、文化も伝統もない地域である。保護者は東京に通勤し多くの生徒が塾に通っている。</p> <p>他の地域からの流入者が多いため、学校に対する親のクレームを諫める祖父母もいない。</p> <p>環境としてはやりにくさもあるが、だからこそ理詰めで説得していくしかない。</p>
稲本委員	<p>岐阜県の学校は伝統と自然と地域をもっている。それらを生かしていけば、いい学校ができるのではないかと思っている。</p>
平川氏	<p>私の学校は裕福な親も多く、体裁に気を使う方も多い。</p>
知事	<p>そういう風潮の中で、進学や受験指導はどのように取り組んでいるのか。</p>
平川氏	<p>難しいのはそこである。塾のおかげもあり進学実績も上がっており、今年も東京学芸大附属に4人、慶応女子に3人合格した。</p> <p>できる子は放っておいても勉強する。それよりも授業でやりたいのは、格差をなくすことである。</p> <p>今度作る特別支援教育では春の中学校体験コースを作る。入学式後に不登校になる子をなくすため、中学生生活を不安に思っている生徒や小学校で不登校であった生徒に対し、春休みに中学校に来て勉強をさせる。そこで実力を見て、放課後の補習指導につなげようと思っている。</p> <p>格差をどうなくすかについて、例えば数学では一つの章を12コマに分けて進めていく中で、途中途中で理解できなかった部分が積み重なって、最後の章では全く理解できないという状態になる。そうなる前に、途中で2週間に1回、復習の時間を作ることにした。クラスの中に数学の先生を全員入れて、できる生徒はどんどん進めさせ、できない生徒には先生がつきっきりで指導する。このようにすれば格差も減るのではないかと考えており、少人数クラスのあり方を工夫しようと思っている。</p>
知事	<p>教育の世界は非常に保守的なところがある。親に自信がない、先生も自信がない。それに対して、校長先生があらゆることに目を通し、全部自分で進めるのは大変だと思うが、協力してくれる先生はいるのか。</p>

平川氏	1校目で5年間かけてやった時は最終的には全員ついてきた。できることからやっていくしかない。やり続けるしかない。
稲本委員	生徒全員に学習内容をすべて理解させるということは不可能である。 また、今の理科教育に対する疑問もある。完璧な理解を目指す必要はない。
平川氏	オランダでは社会と理科の授業はない。その代り、ワールドオリエンテーションという日常の中で起こったことを話し合う授業になっている。 絵巻物のように勉強することも大切ではあるが、社会的に起こったことを議論していくこともシチズンシップ教育なのかなと思っている。
稲本委員	物理学の最先端が分かっていたら文明の限界も分かる。現実には動いている文明と仕組みをうまく教える教育でないとだめだと思う。そういう視点で物事を見るようになれば、中にはものすごく科学に興味を持つ子が出てくる。 世界には大学生で起業し、成功する例も出ている。そのきっかけをつくるのが教育であり、結果までは保証できなくても、幅広い、選べる教育であることが重要。 教育は機会均等でないといけないと思うが、今の教育には結果まで平等にやろうとする傾向があり、それは無理だと思う。
平川氏	一人でできるとは思っていない。共感してくれる保護者の方がコーディネーターとして手を挙げてくれることもあり、そういう広がりが必要かなと思っている。 先生達の協力も必須であり、丁寧にやっていく必要があると思っている。 今年は1年で急いで実践したが、やはり待ってられない。5年かけて実践しても、子どもの1年は戻ってこない。このやり方を正しいと思っていない人もいるが、それについては面談で丁寧に考えを説明し、分かり合ってやっていくしかない。
知事	どういう経緯でこの仕事を引き受けられたのか。
平川氏	公募である。もともと留学斡旋会社を運営していたが、「日本に勇気と元気と活力を」を会社のミッションとしていた。それを留学ではなく教育で実現していこうと考えた。
知事	岐阜県では公募で校長を選んだことはあるのか。
教育長	民間人校長として十六銀行と大垣共立銀行から登用したことがある。公募は小中学校で一人あったと思うが。
知事	校長を公募で選ぶということについてどう思うか。

平川氏	<p>生徒が多様化していることもあり、色々な方が学校現場に入る方が活性化するのはないかと思う。ただし、民間なら必ずいいということではない。大企業のサラリーマンではあまり効果がないと思う。小規模でも自分で商売をし、ヒト・モノ・カネをマネジメントしたことのある人の方が現場では生かされるのではないかと思う。</p> <p>学校現場では、先生も生徒も嫌だから、合わないからと辞めさせることはできない。排除せずにやっていくという苦労はある。民間の会社のように簡単に切り捨てるよりも、多様性を認めながらやっていくことが、21世紀型かなとは思っている。</p>
稲本委員	<p>飛騨の山奥に、リクルートの子会社から林業に転職した男性がいるが、業績がとても伸びている。なぜかという、その男性にはマネジメントの能力がある。林業では仕事を選ばなければ色々な事業を行える。そこに気が付いた新しい人たちが成功しはじめている。</p> <p>教育も同じであると思う。教育もある意味では人という宝の山であり、人をどうやって生かすかが重要である。そこをうまくアピールして民間から人に入ってきてもらい、教育に燃えて教師をやっている人と化学反応を起こせば面白いのではないかと思う。</p>
平川氏	<p>古い考えの先生と協力するための最大のポイントは、「生徒のため」というところである。教育現場は気持ちと思い込みが強い世界であり、新しい取り組みを実行しようとするのは難しい。しかし、一旦転がり始めると先生たちが自主的に動き出してくれるようになる。</p>
教育長	<p>去年、平川校長に岐阜市の中学校を見学していただいたが、その際の率直な感想をお聞きしたい。</p>
平川氏	<p>良い学校だと思った。基礎基本をきちんとやっており、先生の質も高い。職員室も教室も綺麗だし、板書も良い。ウェルオーガナイズドというように感じた。一方で、一斉授業で発表者の方を向く生徒の反応など予定調和すぎるとも感じた。</p>
教育長	<p>生徒達は中学でそのように従っていても、高校ではしない。生徒達はその場に順応している。先生が何を望んでいるかに合わせて生徒が上手に行動している。先生がそれに満足してはダメだと思っている。</p>
平川氏	<p>これからの時代は先生はファシリテーターとして、生徒に自由に話をさせ、主題から離れた時にそれを補正するのが役割かなと思っている。</p> <p>日本の場合はどうしても学級経営という考え方が強く、それはそれで重要なことではあるが、世の中に出ると、異年齢の人たちとの生活が多くなる。教育の場においても、同年齢同質の人だけと関わるのではなく、縦割りのクラス編成で下の子を教えるようなことを小学校でやってみたいとも思う。小学校からやっていないと中学でいきなりはできない。</p>

宗宮部長	ありがとうございました。平川校長にはここで退席させていただきます。
岐阜県教育大綱（仮称）の案について	
宗宮部長	資料１－１～２－２、参考資料により説明
稲本委員	<p>大綱の内容は大変良いものになっているが、これを具体的にどう実行に移していくかが大切であると思う。</p> <p>例えば、優秀な教員の養成や民間から校長を登用する場合などの実際的な取り組みと、この大綱のつなぎの部分はどうなるのか。</p> <p>他にも、グローバル人材の育成といった場合にも、海外から語学教師を呼ぶという方法もあれば、外国人の生徒と交流を深める中で互いの言語や文化を学び合うという方法もある。このような具体の実施の方法までは大綱に書かないものなのか。</p> <p>大綱だけでは机上の空論になってしまう。実のところ、具体の実施方法が一番大切ではないか。実行の方法について、どこかに書く必要はないか。</p>
事務局	大綱とは教育等の目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策について策定することを求められているものではないため、このような書き振りにしてある。
上手副知事	教育ビジョンと大綱の関係は。
事務局	<p>教育ビジョンと大綱はそれぞれ根拠法が異なるため上下関係はない。</p> <p>本県の場合は、教育ビジョンに新たな課題に対応するための項目を加えたものが大綱案となっているため、対立する内容となっているわけでもない。</p> <p>両者の改定時期を合わせてあり、施策の根本となる方針を大綱で示し、具体の実施計画のような部分を教育ビジョンに記載するという整理もできる。</p>
上手副知事	稲本委員のおっしゃる大綱の実施方法の部分については、教育ビジョンに記載していくということによいのではないか。
稲本委員	<p>了解した。</p> <p>もう一つ、県では人口減少対策として移住定住の取り組みを行っているが、移住を決断するための大きな要素の一つに教育環境の充実が挙げられる。</p> <p>そのため、「清流の国ぎふ」という岐阜県全体のアピールの中で、教育大綱をベースにしたPR映像を作るとよいのではないかと思う。</p> <p>よい大綱ができたのだから、教育を含めた岐阜県の良さをアピールする予算をしっかりと組んでPRを行うべきである。</p>

教 育 長	教育委員会の作るパンフレットも文字ばかりのものが多いため、もっとすっきりとさせてPR効果の高いものにしないとイケない。
上 手 副 知 事	平川校長がマネージメントについて話をされた。教師としての教える能力と校長としてのマネージメント能力は別のものであるため、登用試験ではその辺りを見ていく必要がある。
教 育 長	難しい課題であるが、高等学校の校長の登用試験において、教育委員による面接をようやく導入したところである。
宗宮部長	それでは最後に、知事から一言お願いします。
知 事	<p>大綱に関しては、ご指摘のとおり、これをどう実行に移していくかが大切である。</p> <p>間もなく発表されるが、昨年の国勢調査による岐阜県の人口が203万人である。5年前は208万人であり、年間1万人のペースで人口が減っているため、あらゆるところで人材不足が課題となっている。</p> <p>そういう意味で、「ひとを育む」や子どもの貧困問題を含めた「ひとにやさしい社会をつくる」といった方向に予算や政策的な傾斜をかけてもよいのではないかと考えている。</p> <p>また、岐阜県の予算は4年連続の増額となる一方、公債費が減ってきている。もちろん社会保障費などは増え続けているが、政策的に使える予算は増えているため、「ひと」への投資に重点を置いてもよいのではと考えている。</p> <p>お手元に、大綱に即した来年度の主要な予算の概要をお配りしてある。これらの事業の実施に関しても引き続きご議論いただければと思う。</p> <p>また、移住定住の推進については様々な手段で本県の魅力をアピールしているところであるが、本県の教育も魅力の1つとして、わかりやすくアピールしていくことを考えていきたい。</p> <p>最後に、今日の平川校長のお話を伺い、本県においても公募制度の導入について議論してまいりたいと考えている。</p>
宗宮部長	これをもって本日の会議を終了する。大綱については、この大綱案を最終案として、県議会への説明を経て年度末までに策定したいと考えている。